

香大っこサポーター養成講座報告書

日時：平成25年7月3日(水) 13:00～15:30 場所：北3号館1階313

参加者：36名（男性：6名 女性：30名／教育学部：22名 法学部：8名 経済学部：6名）

7月3日（水）幸町キャンパスで「香大っこサポーター養成講座」を実施し、36名の学生が参加しました。

まず、男女共同参画推進室の長安コーディネーターより、香大っこサポーターの意義、活躍、事故の対応、個人情報保護等について説明がありました。男女共同参画社会が目指すものは「一人一人が幸せな社会」。国籍、障害の有無、年齢、性別に関係なく、いろいろな立場を包括して創造できるのが男女共同参画社会と言われており、香大っこサポーターは学内の男女共同参画を進めるために活躍してもらおうサポーターのことです。



背景として今の時代、男性にもワークライフバランスが求められていること、女性の活躍の重要性、女性の潜在力の発揮が経済社会の活性化につながるなどが挙げられます。男性の家庭への参画が進むことによって、出生率も変わってきます。日本の男性の家事・育児に費やす時間は世界的に見ても最低の水準で、日本はまだ遅れています。

香川大学では「香大発、地域ぐるみ女性研究者支援の高波を」女性研究者研究活動支援事業に取り組んでいました。その事業で大事にしたのが女性研究者が教育・研究と出産・育児が両立できるように支援したこと。その流れをくんで「香大っこサポーター」が結成されました。女性研究者は大学の仕事も、自身の研究も、学生の指導も、家庭のことも全部がらばっていて、とても忙しく大変です。入試の時など、休日でもどうしても出勤しないといけない時に手伝ってくれる人たちを育てていこうという趣旨で「香大っこサポーター」が発足したのです。女性の先生の半数は単身赴任を経験していて、香大っこサポーターはそんな女性の先生の大きな助けになり、そして、学生、男性も含むすべての構成員のためにも力になれると説明がありました。



長安コーディネーターのレクチャーの後、実際に香大っこサポーターとして活躍中の先輩方からのビデオメッセージを視聴しました。二人の先輩から香大っこサポーターの活動はとても楽しいことが伝わってきました。香大っこサポーターの活動は共働きの家庭で育てているお子さんと向きあう機会となり、学生にとっては自身の進路やライフイベントを考える上で大事な要素の一つになるかもしれません。

また、託児ボランティアあゆみの梶ヶ谷真知子さんからは「保護者が預けたことを“大切”に思えるように支援すること」と託児をする上でのポイントを教わりました。また、長時間の託児は子どもにとってハードな時間なので、子どもの生活リズムに合わせて遊んであげること、そして、託児には危険を予測したり、子どもの様子を見過ごさない想像力やコミュニケーション力が必要ということも学びました。受講生同士のワークショップもあり、体を動かしながら受講する楽しい講座となりました。

「学校や家庭だけじゃなくて、いろんな大人の人と接した人はすごい財産を持っている、人生が豊かになるんじゃないかと思う」と話す梶ヶ谷さんのやさしいまなざしが印象的でした。託児支援25年。梶ヶ谷さんの言葉には輝きと説得力がありました。

当日は、講師の梶ヶ谷さんのアイデアで、5人の赤ちゃんを連れてお母さんたちも説明会に参加協力してくださり、参加した学生は、実際に赤ちゃんをだっこしたり、一緒に遊んだりと思いがけない託児実習もできました。大勢の学生を見て泣き出す赤ちゃんも居ましたが、実践さながらの貴重な体験となりました。

